

〔ワケネギ「東京小町」の周年栽培体系における生育特性の解明〕
ワケネギ3系統の夏植え露地栽培における収量性と収穫適期の把握

吉原恵子・野口 貴*・木下沙也佳・海保富士男・大槻優華
(園芸技術科) *現農振事

【要 約】ワケネギの夏植え露地栽培における収穫期は、在来系統と比較して「埼玉優良系統」で早く、「東京小町」で遅い。上物収量は「埼玉優良系統」で在来系統と同等以上、「東京小町」で在来系統を下回る。

【目 的】

ワケネギ「東京小町」の作型ごとの収量性や収穫適期について、在来系統（以下、「在来」と略）や「埼玉県優良系統」（以下、「埼玉」と略）と比較しながら解明する。前報で春植え露地栽培の収穫適期等を明らかにした。本報では夏植え露地栽培の試験を行い、今後の資料とする。

【方 法】

「東京小町（以下、「小町」）、在来、埼玉」を2023年6月5日、7月4日、8月8日に銀黒マルチ9220を敷設したベッドに定植した。定植は孔あたり1本とし、「在来」区、「埼玉」区、「小町1本」区とした。また、「小町」では一部2本植えの区「小町2本」区を設けた。定植後は「サンサンネットクロスレッド（目合い0.8mm）」でトンネル被覆した。施肥は、N-P₂O₅-K₂Oを成分量で20-20-20kg/10aとし、全量基肥で行った。収穫調査は、3系統の生育を考慮しつつ同日に行った。

【成果の概要】

1. 6月5日定植では10月19日、7月4日定植では12月20日、8月8日では2024年3月29日に収穫調査を行った。定植時期が後になるほど栽培日数は長くなり、同じ夏植えでも6月と8月定植では98日間の差が生じた（表1）。分けつを調整して得た株あたり上物本数は、時期や系統により5～41本と開きがあった。株あたり上物本数が20～30本の時期を収穫適期とすると、3系統全てが収穫適期となったケースは稀で、概ね「埼玉」で収穫遅れ、「小町」で早いと判断された。
2. 上物収量は「在来」と比較し、「埼玉」で同等以上、「小町1本」では、「在来」を下回り、「小町2本」では、6月定植を除き下回った（図1）。6月定植の「小町2本」は「在来」と比較すると、上物本数は下回ったが、上物重に有意差がなかった。一方、8月定植では「小町」を2本植えしても「在来」の上物重に比べて低くなった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

秋植え露地栽培およびハウス栽培での収量性や収穫期の把握を行う。

表1 ワケネギ3系統の夏植え露地栽培における収量性および収穫日の適否

定植日	収穫日	栽培日数	系統	草丈	株周り ^a	株重	調整重 ^b	調整本数	上物本数 ^c	上物重	上物1本重	葉鞘径 ^d	収穫日の適否 ^e	
				(cm)	(cm)	(g)	(g)	(本/株)	(本/株)	(g)	(g)	(mm)		
6月5日	10月19日	136	在来	72	17	394	260	33	26 b	238 b	11.3 b	4.7	適	
			埼玉	78	21	688	474	50	41 a	441 a	12.0 b	4.5	やや遅	
			小町1本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			小町2本	63	14	328	195	9	7 c	187 b	27.8 a	8.3	早	
7月4日	12月20日	169	在来	80	25	854	584	37	34 a	566 a	-	5.6	適	
			埼玉	86	25	866	592	37	34 a	587 a	-	5.4	適	
			小町1本	50	12	227	147	5	5 b	147 b	-	12.3	早	
			小町2本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8月8日	3月29日	234	在来	74	27	1,671	1,070	44	33 a	974 a	33.4 b	3.7	適	
			埼玉	76	28	1,843	1,143	49	36 a	1,018 a	32.6 b	4.2	やや遅	
			小町1本	51	17	460	311	11	8 b	280 c	38.1 ab	4.3	早	
			小町2本	65	26	1,341	703	27	15 b	588 b	40.7 a	4.2	やや早	

a:葉鞘部中間を測定、-印は欠測。b:葉身2～3枚になるように皮むき調整した後の分けつの総重量。c:葉身2枚以上かつ葉身40cm以上の分けつ。d:葉鞘中央部の短径を測定。e:当該の収穫日について早:早い, や早:やや早い, 適:適期, や遅:やや遅い。各収穫日の各試験区において, 表中の数値に付けた異なる英文字間には Tukey 法により 5%水準で有意差あり。

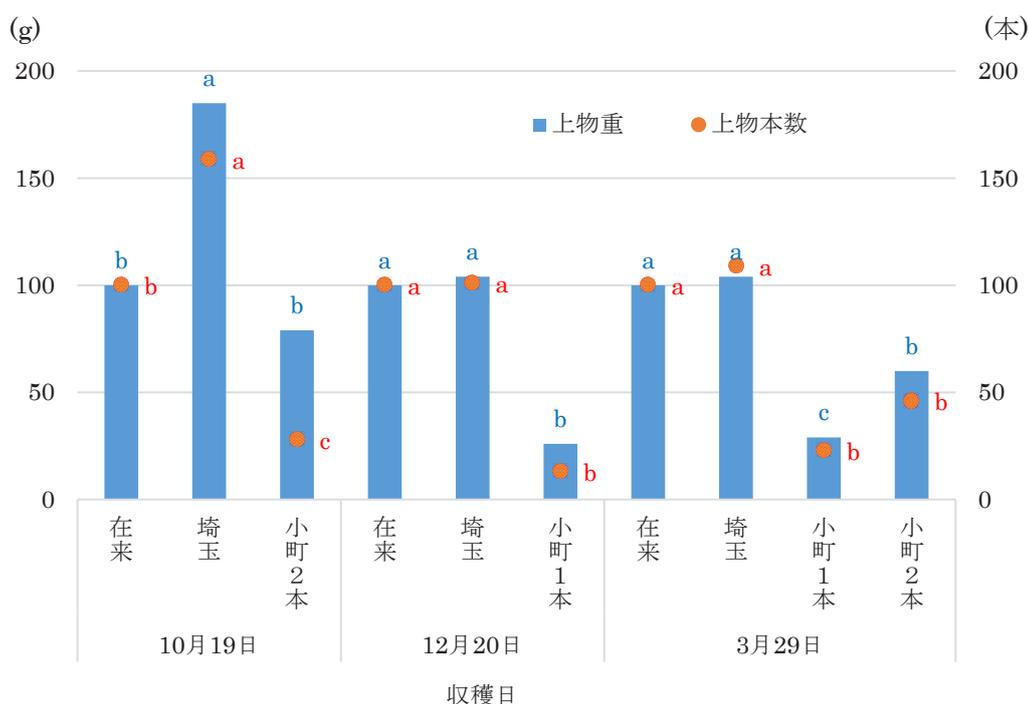


図1 「在来」に対する「埼玉, 小町1本, 小町2本」の株あたり上物重と上物本数の比率
「在来」を100とする。収穫日を同じくするグラフにおいて, 異なる英文字間に Tukey 法により 5%水準で有意差あり。(n = 8)